



富山県

ニホンナシ中生品種「王秋(おうしゅう)」の特性

富山県農林水産総合技術センター 園芸研究所 果樹研究センター

1. 背景とねらい

富山県のニホンナシ生産では、9月下旬の「新高」以降に収穫される品種がごく少なく、出荷・販売が10月上旬で終了する生産者が多いため、10月以降の需要に応えることができる良食味の品種が求められています。

ニホンナシ「王秋」は、農林水産省果樹試験場(現(国開)農研機構果樹茶業研究部門)において交配親を「C2(慈梨×二十世紀)」×「新雪」として育成された晩生品種であり、本県における果実品質・生育特性を明らかにしました。

2. 成果の内容

- ・樹勢は強く、樹冠の拡大は容易です。長果枝の花芽の着生は中程度で、短果枝の維持は容易です(表1)。
- ・果形は円楕円の独特の形をしており、果皮色は黄褐色(図1)。黒斑病抵抗性があり、日持ち性は「新高」「新興」と同等かそれ以上に高いです。
- ・開花期は、始期が4月15日、盛期は4月18日で、「新高」「新興」よりもやや遅いです(表1)。
- ・収穫期間は10月16日～26日頃であり、盛期は10月19日で、「新高」「新興」より遅いです(表1、図2)。収穫前落果がやや発生します。
- ・果実重は561gで「新興」より大きく「新高」より小さいです。糖度は13.4Brix%で「新高」「新興」より高く、pHは4.36で、酸味は「新高」より多く「新興」より少ない(表2)、甘酸適和の良好な食味です。「新高」「新興」よりも滑らかな肉質で果汁が多く、香りが良いことが特徴です。

表1 特性および生育期(平均値)

	樹勢	花芽着生		果形	果皮色	収穫前落果	開花期			収穫期		
		長果枝	短果枝				始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
王秋	強	中	多	円楕円	黄褐	少	4/15	4/18	4/23	10/16	10/19	10/26
新高	や強	中	多	扁円	黄赤褐	少	4/15	4/16	4/22	9/27	10/3	10/11
新興	中	中	多	円	黄褐	無	4/14	4/16	4/22	10/7	10/13	10/23

※開花期・収穫期は、「王秋」は2002年～2020年(一部データ欠損年有り)、「新高」は1987年～2020年まで、「新興」は1997年～2020年(一部データ欠損年有り)の平均値

表2 果実品質(平均値)

	果実重(g)	地色(指数)	硬度(lbs)	糖度(Brix%)	pH
王秋	545	4.1	5.1	12.9	4.42
新高	652	4.8	6.6	12.5	4.85
新興	436	4.9	6.1	13.2	4.23

※果実品質は、「王秋」は2002年～2020年(一部データ欠損年有り)、「新高」は1987年～2020年、「新興」は1997年～2020年(一部データ欠損年有り)までの平均値(地色のみ「王秋」「新興」は2016年および2018年～2020年まで、「新高」は2011年～2020年までの平均値)



図1 「王秋」の外観

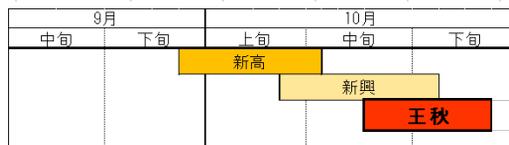


図2 「王秋」と本県推奨品種の収穫期(イメージ)

3. 成果の活用・留意点

- ・「新高」後に収穫できる貯蔵性が高く食味の良い品種として、販売期間の拡大が図れる品種です。
- ・S遺伝子型はS₄S₅で、本県で授粉用品種として利用されている「今村秋(S₁S₆)」、「松島(S₁S₃)」、「新興(S₄S₉)」と和合性があります。「新水」、「愛甘水」、「幸水」とは不和合性です。
- ・年によりみつ症の発生が少程度見られます。またコルク状果肉障害が出やすい傾向があるため、極端な強樹勢や大玉づくりにならないよう注意しましょう。なおコルク状果肉障害は、窒素過多、土壤の乾燥によっても発生しやすいので、土壤管理に留意する必要があります。
- ・成熟期に近づいてからは果皮色の変化が少ないため、外観から収穫適期を判別することが難しい品種です。満開後170～180日頃から、地色4程度の果実を試し採りし、食味を確かめてから収穫を行いましょう。